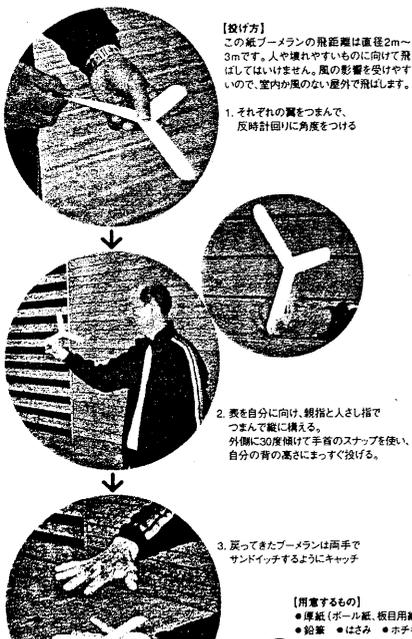


高く舞う紙 紙が飛ぶ紙が浮く紙

③ 水戸ブーメランクラブ「WINGWIN」代表 関根 清さん

手首のスナップをきかせて空中に解き放つと、くると自転しながら大きく弧を描き、やがて手中に戻るブーメラン。手作りの楽しさと道徳を操る世界にひかれ、同好の仲間と集い、世界競技大会への出場も果たしたという、水戸ブーメランクラブ「WINGWIN」の関根 清さんを訪ね、その魅力と初心者におすすめの紙ブーメランの作り方をうかがった。

空中で弧を描き、手元に戻る紙ブーメラン 多くのの人にこの魅力を伝えたい



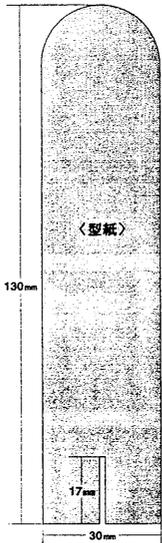
【設け方】
この紙ブーメランの飛距離は直径2m〜3mです。人や壊れやすいものに向けて飛ばしてはいけません。風の影響を受けやすいので、室内か風の強い屋外で飛ばします。

1. それぞれの翼をつまんで、反時計回りに角度をつくる

2. 翼を自分に向け、鏡像と人さし指でつまんで鏡に構える。外側に30度傾けて手首のスナップを使い、自分の背の高さにまっすぐ投げる。

3. 戻ってきたブーメランは両手でサンドイッチするようにキャッチ

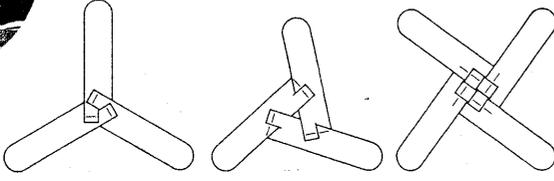
【用意するもの】
●厚紙(ボール紙、板目用紙など。お菓子の空き箱等も利用できる)
●鉛筆 ●はさみ ●ホチキス



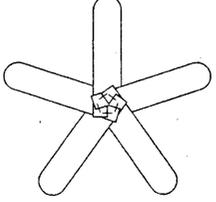
「紙はブーメランの初心者に向いた素材です。飛距離や滞空時間は他の素材に及びませんが、室内で手軽に楽しめますし、チューニングの仕組みや飛ばし方は基本的に変わります。」
「ブーメランの初心者に合った素材です。飛距離や滞空時間は他の素材に及びませんが、室内で手軽に楽しめますし、チューニングの仕組みや飛ばし方は基本的に変わります。」
「紙はブーメランの初心者に合った素材です。飛距離や滞空時間は他の素材に及びませんが、室内で手軽に楽しめますし、チューニングの仕組みや飛ばし方は基本的に変わります。」

「WINGWIN」ではブーメランの普及とより多くの競技者を育てるため、クラブの活動エリアを広げ、新しいメンバーの募集も行っている。
「WINGWIN」ではブーメランの普及とより多くの競技者を育てるため、クラブの活動エリアを広げ、新しいメンバーの募集も行っている。」

ブーメランはどうして戻ってくるのだろうか。その原理には2つの理由があるという。ひとつは回転しながら風を受ける翼に揚力が発生すること。もうひとつは縦に投げることで、回転の中心より上側が下側より大きな風を受け、進行方向を変える力が発生することだ。
「難しい理論を学ぶより、飛ばしてみることが、自分の投げたブーメランが確かに戻ってくることをまず体験してください。さらに遠く滞空時間を延ばして正確に戻ってくるには翼をどう調整して、どんな角度で投げたらいいのか、何度か繰り返し返すと分かると思います。」(水戸ブーメランクラブ「WINGWIN」代表 関根清さん)
ブーメランには完成された「究極の形」がない。だから翼の形状はさまざま、素材も紙、プラスチック、木などがある。競技に使われるのはプラスチックや木製のものを滞空時間、飛距離、スピードなど種目ごとに使い分ける。滞空時間の長いものは1分を超え、飛距離50mのものもあるという。形や素材が違っても、共通するのは必ず戻ること。戻らないものはブーメランとは呼べない。競技では板状の素材を切るころから、自分で手作りすることが多い。
「紙はブーメランの初心者に合った素材です。飛距離や滞空時間は他の素材に及びませんが、室内で手軽に楽しめますし、チューニングの仕組みや飛ばし方は基本的に変わります。」



【作り方】
1. 作りたいブーメランに必要な翼の枚数分の型を紙に写す
2. はさみで切り抜く
3. 角度が等分になるように切り込みを差し込みホチキスで止める



代表の関根さん(左)とメンバーの一部。天候がよければほとんど毎週末に活動している。
左から: 関根清さん、水戸ブーメランクラブ「WINGWIN」代表、日本ブーメラン協会茨城地区代表、2003年ブーメランジュニアバンカップ準優勝、事務局/029-295-3060(茨城県常陸市 関根宅) 携帯番号/029-770-8085(茨城県常陸市 小坂町) [URL] <http://www.5d.biglobe.ne.jp/wingwin/> [E-mail] sekine_joycomaru@mc.biglobe.ne.jp



国内外に60万haの森を目指して

紙の原料を安定的に確保することを目的として、製紙産業は森を作る植林事業を積極的に推進しています。
樹木の種類はユーカリ、アカシアなど短い年月で成木になるものが中心です。木は空気中のCO₂を吸収して体に蓄えることで成長します。育てて、利用して、また植えるという循環型の植林により、森にはCO₂をよき吸収する若木が多くなり、地球温暖化の防止にも役立っているのです。より成長が早く、寒さや乾燥に強い樹木など、品種改良にも力を注いでいます。
海外の牧草地や灌漑地、荒廃地など、製紙産業がこれまで植林した土地は日本を凌いで世界10カ国、約54万haに及びます。今後も継続的に植林を進め、2010年には60万haへ広げることが目標に積極的に取り組んでいます。

紙なしでは生きられない人、紙の未来のために。

紙の5年〜10年間の持続可能な循環型社会の実現に向けて、紙の原料を安定的に確保することを目的として、製紙産業は森を作る植林事業を積極的に推進しています。

紙なしでは生きられない人、紙の未来のために。

人は紙なしでは生きられない。

紙は自然の恵み。緑豊かな自然に育まれた木と水によって美しい紙へと生まれ変わり、そして人々の生活の中へ。

森林資源を利用するからこそ、植林木や古紙を積極的に活用し、環境負荷の少ない持続可能な循環型社会に貢献する会社でありたい。

美しい自然を大切に美しい紙を作り続ける。

中越パルプ工業は、自然の恵みを持ち続ける会社でありたい。

「紙」を通じて人々の暮らしを豊かに

中越パルプ工業
Chuetsu pulp & paper
本社 東京都中央区銀座2-10-6
03(3544)1507

●新聞用紙 ●上質紙 ●製本紙 ●製袋紙 ●クラフト紙 ●純白ロール紙 ●高級白版紙 ●特殊紙

<http://www.chuetsu-pulp.co.jp/>

MARUSUMI 丸正製紙株式会社

自然とともに 人とともに

紙は、日常生活はもちろん、情報の伝達や文化の継承にその社会的役割は無限大にあります。印刷すること、書くこと、色を塗ること、加工すること、折ること、包むこと、角を巻くこと、また、丈夫で軽いといった機能をもちた素材は他にありません。私たちは人一倍熱い情熱で紙づくりに専念してきました。紙によって、私たちの思いとユーザーがある皆さんの思いがつながることを願っています。

創業以来80年余りの経験と培った技術力を背景に、21世紀型企業としてさらに飛躍に多岐のために、私たちは「紙の未来」をあらゆる角度から考えます。

丸正製紙株式会社

エリエール

一品質は、やさしさへ

GOON

elis

テークア

丸正製紙株式会社

歴史を蓄える紙。

創業以来130余年、私たちは技術革新を重んじ、優れた再現性と保存性を誇る多様な出版・書籍用紙を開発し続けています。今後もこの歴史と伝統を礎に、より忠実に美しく、情報や文化を守り育む、王子製紙グループのブランドです。

私たちはブランドがあります
王子製紙グループ
www.oiipaper.co.jp www.oiigroup.net